

大腸癌研究会プロジェクト
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

- 研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成
研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

第 15 回会議議事録

2024 年 7 月 11 日

名古屋コンベンションホール 「メインホール」 + web

■出席者 (50 音順、敬称略)

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一 (欠席)
- 委員 (50 音順)：秋元直彦、味岡洋一 (欠席)、池松弘朗、石黒めぐみ、石原聡一郎、市川一仁、浦岡俊夫、大内彬弘、大沼忍、岡志郎 (欠席)、奥山隆、勝又健次 (欠席)、金光幸秀 (代理：高見澤康之)、河内洋、桑井寿雄 (代理：田丸弓弦)、小嶋基寛、小林宏寿 (代理：高島順平)、小森康司 (代理：大内晶)、小西潤 (代理：今野真己)、斎藤彰一、齋藤裕輔 (欠席)、斎藤豊、坂本一博、島崎英幸 (欠席)、菅井有 (欠席)、関根茂樹 (欠席)、高松学、田中信治 (欠席)、富樫一智、中井啓介、永田信二 (欠席)、中村好宏 (欠席)、藤盛孝博 (欠席)、福長洋介 (欠席)、堀田欣一、松下弘雄、松田健司、山田一隆 (代理：米村圭介)、山田真善、山野泰穂 (欠席)、吉田直久 (欠席)、梶原由規 (事務局)
- オブザーバー 35 名

■会議内容

1. 研究 1 (Nomogram study)

(1) 進捗状況について

副次的解析論文の一つである『Long-Term Outcomes of Additional Surgery After Endoscopic Resection Versus Primary Surgery for T1 Colorectal Cancer』が Am J Gastroenterol 誌に accept されたことが報告された。

Am J Gastroenterol 誌に accept された予後に関する主解析論文において、重複例を除外する前のデータセットが使用されていることが判明したため、担当の岡委員に紙面版では正しいデータセットで報告いただくよう journal と交渉いただくことを依頼したことが委員長より報告された。

富樫委員および高松委員よりそれぞれ担当する副次的解析の結果が紹介された。

(2) Nomogram の公開について

事務局より大腸癌研究会 HP において T1 大腸癌のリンパ節転移予測 nomogram を 5 月 15 日に公開したことが紹介された。なお、委託業者の変換ミスにより SM 浸潤度(2000 μ m 以上)、占居部位(下部直腸)についてリスクポイントが低く設定されていたことが判明し、6 月 5 日に修正を完了したことが報告された。

2. 研究 2 (F1 study)

(1) 進捗状況について

事務局より病理評価担当委員による本邦の T1 大腸癌 1000 例分のデジタルスライドデータの病理所見評価を完了したことが報告された。interobserver study の結果、新規病理因子である低分化胞巣や対物 40 倍領域を指標とした最低分化度の評価者間一致度が脈管侵襲等の既存の病理因子に劣らないことが報告された。また、途中解析結果であるが、これらの新規病理因子がリンパ節転移と有意に相関しており、新たな治療アルゴリズムの確立も目指し得ることが説明された。

一方、対象とした標本の一部に垂直断端陽性やアーチファクトが強いものが含まれており、解析対象症例の再確認が必要であり、また簇出や低分化胞巣の「有無」について追加評価を行うかを議論するため、近日中に病理小委員会を開催することがアナウンスされた。

(2) 副次的解析について

本体研究において不適格症例等が確定したのちに、臨床データを副次的解析担当施設に配付することが説明された。また、他にも副次的解析希望を受け付けていることがアナウンスされた。

3. その他

委員長より研究期間の延長について味岡会長に内諾を得たことが報告され、2～3 年の期間延長について委員の賛同を得た。